

日蓮大聖人御書全集

け  
か  
じ  
よ  
う  
じ  
ゆ  
ご  
し  
よ

華果成就御書

新版  
1210  
）  
1211

けかじようじゅごしよ

# 華果成就御書

こうあんがんねん

がつ

さい

じようけんぼう

ぎじようぼう

弘安元年 (78)

4月

57歳

浄顕房・義浄房

のち

ごと

打

絶

もう

うけたまわ

そうろう

その後、なに事もうちたえ申し承らず候。

けんじ

ころ

こどうぜんぼうしようにん

にさつ書

遣

さては建治の比、故道善房聖人のために二札かきつかわ

たてまつ

そうろう

かさ

もり

読

たま

そうろう

由

よろこ

し奉り候を、嵩が森にてよませ給いて候よし、悦び

い  
そうろう

入つて候。

ね 深

時

えだは 枯

みなもと

みず

たとえば、根ふかきときんば枝葉かれず、源に水あれば

なが

乾

ひ

薪

欠

絶

そうもく

だいち

流れかわかず、火はたきぎかくればたえぬ。草木は大地なく

しようちよう

して生長することあるべからず。

にちれん ほけきよう ぎようじや

日蓮、法華經の行者となつて、善悪につけて日蓮房・

ぜんあく

にちれんぼう

にちれんぼう

謳

ごおん

こししやう

どうぜんぼう

ゆえ

日蓮房とうたわるるこの御恩、さながら故師匠・道善房の故

にあらずや。

にちれん そうもく

ししやう

だいち

日蓮は草木のごとく、師匠は大地のごとし。

か じゆ ぼさつ じやうしゆ しにん

いち

じやうぎやう

彼の地涌の菩薩の上首、四人にてまします。「一に上行

な ないしし あんりゆうぎやうぼさつ な

うんぬん

まつぼう

と名づけ乃至四に安立行菩薩と名づく」云々。末法には

じやうぎやうしゆつせ

たま

あんりゆうぎやうぼさつ

しゆつげん

たも

上行出世し給わば、安立行菩薩も出現せさせ給うべき

か。

稲

はなみ じやうじゆ

かなら

こめ

せい

だいち

されば、いねは華果成就すれども、必ず米の精、大地に

おさまる。故ゆえに穢ひつじ生おいいでて、出二度、に華果成就するなどり。

日蓮にちれんが法華經ほけきようを弘ひろむる功德くどくは、必ず道善房かならの身みに帰きすべ

し。あらとうと、とうと。

よき弟子でしをもつとき持んば、師弟していぶつか仏果悪にいたり、あしき弟子でし

をたくわいぬれば、師弟蓄地獄していじごくにおつといえり。師弟相違随せば、

なに事ごとも成なすべからず。委くわしくはまたまた申もうすべく候そうろう。

常つねにかたりあわせて、出離しゆつりしようじ生死どうしんして、同心りようぜんじようどに靈山淨土どうしんに

てう額な語ず合きかたり給たまえ。經きように云いわく「衆しゆに三毒さんどく有ありと示しめし、

また邪見じゃけんの相そうを現げんず。我が弟子でしはかくのごとく、方便ほうべんもて  
衆生しゆじようを度どす」云々うんぬん。前々さきさき申もうすごとく御心得おんこころえあるべく候そうろう。

あなかしこ、あなかしこ。

弘安元年こうあんがねん戊寅つちのえとらう卯月づき 日にち

日蓮にちれん 花押かおう

浄顯房じようけんぼう

義浄房ぎじようぼう